

2002年度日本水産学会，講演要旨集 247, p36.

247 関西空港周辺海域でのバイオテレメトリーによる 魚類の行動測定Ⅱ

コード化ピンガーによるメバル・カサゴの追跡

○米田佳弘(関空)・荒井修亮(京大院情報)・中村憲司(シャトー海洋調査)・

坂本 亘(京大院農)・三田村啓理(京大院情報)・平岡修直(京大農)・光永 靖(近大農)

【目的】関西国際空港の緩傾斜護岸域には水産上有用なメバル、カサゴが数多く生息している。平成12年度、コード化ピンガーを装着したメバルを定期的に追跡し、護岸域および周辺海域での各個体の位置情報を得た。平成13年度は、メバル・カサゴを対象に、護岸域が両種によってどのように利用されているかを明らかにすることを目的に、VR2（前報）で行動を測定した。

【方法】空港島東側護岸で採捕したメバル22個体、カサゴ8個体にコード化ピンガーを装着し、2回に分け放流した。追跡は東側護岸の緩傾斜域（延長約3.5km）を隈無く探査出来るように設置した8台のVR2と沖合約500mに設置した2台のVR2を用いて2001年8月～2002年1月に行った。

【結果】両種ともに護岸上の採捕地点付近での受信回数が多かった。しかし、一部の個体は沖合のVR2でも受信されており、両種は時折護岸から離れ沖合へ遊泳していることが判明した。1時間当たりの受信回数はカサゴよりメバルの方が多かった。各個体の受信回数は、両種とも潮汐リズムに応じて増減し、特に、流速の変化の大きい時に受信回数が多い傾向がみられた。コード化ピンガーからの信号は、遮蔽物の影響を受けることが分かっている（前報）。受信回数が多い時は魚が遮蔽物から離れた時であり、少ない時は海底の岩礁の中やその付近にいる時であると考えられた。したがって、両種の受信回数の違いは護岸への依存の仕方の違いを示し、受信回数の増減は行動の日周リズムを示しているものと推察された。